

YAMAHA MULTI-KEYBOARD SET UP

サウンドを制するものだけが聴衆を把握する。
マルチキーボード・セットアップ。



●自分のサウンドは自分で管理したい。

キーボードの数が多くなるほど問題になってくるのが、各キーボード間の音量バランスや、音質バランス。自分の音楽性、個性を活かし、またPA配線系の簡略化を計るためにも、キーボード自身でミキシングし、メインPAコンソールに送るという方法をとりたいものです。写真左はエレキグランドCP-80、エレキエレクトリックピアノCP-30、プログラマブルメモリーシンセサイザーCS-40M、シンフォニックアンサンブルSK-50DおよびSK-20などのキーボード群をインプット、アウトプットバランス型コネクタを採用した8チャンネルミキサーPM-430に接続し、これをダイナミックレンジの広さで定評あるワークアップ内蔵型スピーカーA4115Hによってモニターする……という、ぜひたいなマルチキーボードシステムです。エフェクターとしては、クリアな音質を誇るプロ用アナログタイプE1010を使用しています。ではそれぞれのセッティングについて詳しく述べていきましょう。

●キーボード各機種のアウトプットについて。PM-430はバランス型のミキサー、CP-80、CS-40Mについてはそのままチャンネルのバランス型アウトを使い、他のキーボード群は片方がフォーンプラグジャック、片方がキヤノンコネクタにならば、バランス用のコードでPM-430に接続するの

が一般的なやり方。ただし高級のサウンドカプリアイをももれる場合には、ダイレクトボックスを使い、各キーボードの後段でアンバランスをバランスに変換。PM-430に送るという方法がよいでしょう。どの接続端子を使用するかについては、下の接続図をご参照ください。

●入力レベルの粗調整について。一般のキーボードは機種によって出力レベルのパラつきがありますが、ヤマハは標準レベルとして-20dBmを採用。従って、基本的にはPM-430のアッテネーターを、-20dBmに合わせます。ただし演奏法などによってもキーボードの出力レベルは変化しますから、たとえCP-80、CP-30でレートを多用するといったケースでは、PM-430の入力感度を上げる(-20dBmから-40dBm、-50dBmへ)ことが必要になります。

●入力レベルの微調整について。まずPM-430のチャンネルフェーダーを振り、マスターフェーダーは目盛り10程度に合わせます。次に1機種ずつ実際に音を出し、ピークがOVU(オーバーユニティ)になるようにそれぞれのチャンネルフェーダーを上げていきます。これで各チャンネルの音量が揃ったわけですが、ただしレベルが0から0の間には納まらないチャンネルがしばしば粗調整に戻り、アッテネーターのセッティングをやり直します。次に全体の音量・バランスを決めるため、複数のキー

ードの音を出してピークがOVUになるようマスターフェーダーで調整。その上で各キーボードについて、自分好みの音量・バランスをチェックしていきます。また、モニター・スピーカーのミキシングはモニターでバランスをとり、モニター全体の音量はモニター・マスターフェーダーにより調整。エフェクトについては、かけたチャンネルについて、モニター1でレベルを調整します。

●ミキサーによる、音色の調整。PM-430の各チャンネルに装備されたハイ、ローふたつのイコライザーによって、キーボードの音色を決定します。この場合、マスターのイコライザーはフラット。各チャンネルの音量は基準値にしておき、ヘッドアフィンでモニターします。なおマスターのコロイザーは、エフェクトのセッティングが終わった後、最終的な音色補正に使用。

●エフェクター-E1010の調整。E1010側のアウトプットと、PM-430のFROM ECHOを接続。インプットはTO ECHOに接続します。E1010のセッティングはまずミキシングのつまみを各DELAY側に合わせ、次にDELAY、DELAY TIME RANGE SWITCH、FEED BACK、MODULATION、BASS、TREBLEなどを目的とするエフェクトの状態にセット。最後にPM-430のモニター1によりエフェクトのレベルを調整します。

